



KYUSHU NATIONAL MUSEUM 2024

海の道、アジアの路  
OCEAN WAYS, ASIAN PATHS





# 市民と共生する博物館

## ごあいさつ

九州国立博物館長 富田 淳



九州国立博物館(九博)は、日本文化の形成をアジアとの交流から考えるというコンセプトを柱に、古より外交の要衝であった福岡・太宰府の地に平成17(2005)年に開館しました。これまでの間、地元である太宰府をはじめ多くの皆様からの温かい応援に支えられ、おかげさまで1,800万人を超える来場者をお迎えすることができました。

当館は、令和7(2025)年に開館20周年を迎えます。日本が対外交流を通して育んできた歴史ドラマをたどる「時間の旅」を通して、皆様に新鮮な感動を体験していただけるよう、益々邁進してまいります。文化財や博物館を取り巻く状況が絶えず変化する中でも、先人から受け継いだ貴重な文化財を守り、魅力を発信するという博物館の使命は変わることはありません。今後も、皆様にとって親しみやすく、安心して楽しめる博物館を目指してまいります。





# を目指して

## ■九州国立博物館のコンセプト

### 日本文化の形成をアジア史的観点から捉える

このコンセプトは平成6(1994)年6月に文化庁が設置した「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」において取りまとめられた、次の基本構想を基に考えられました。

#### Concept 1

我が国の文化の形成において影響のあったアジア諸地域との文化交流の歴史を全国的な視野から扱う博物館

#### Concept 2

考古資料、歴史資料、美術資料、民俗資料、民族資料を中心とした文化財の収集・保存・展示、調査・研究及び教育普及・生涯学習活動が総合的に機能する博物館

#### Concept 3

博物館の諸活動全般が国際化、情報化、学際化され、特に展示及び教育普及・生涯学習活動にその成果が常に反映される、いわゆる「生きている」博物館

#### Concept 4

国と博物館が設置される地域と連携し、相互に協力しながら博物館の諸活動及び管理運営をおこなう博物館

#### ●九州国立博物館の画期的な事業運営

国(独立行政法人)と福岡県が連携協力して事業運営をしています。

|   |                   |               |     |                     |
|---|-------------------|---------------|-----|---------------------|
| 国 | 独立行政法人<br>国立文化財機構 | 事業運営の<br>連携協力 | 福岡県 | 福岡県立アジア<br>文化交流センター |
|---|-------------------|---------------|-----|---------------------|



# フロア構成・施設紹介

4F

## 文化交流展示室

「海の道、アジアの路」

床面積約3,900㎡、天井高7mの黒色を基調とした展示室。基本展示室および11の展示室で構成されています。



P5

3F

## 特別展示室

床面積約1,500㎡、天井高7mの木色を基調とした展示室。大中小3部屋で構成されています。



P9

2F

## 収蔵庫

建物の中心に位置する収蔵庫にて、貴重な文化財を管理しています。



P19

## 保存修復施設

保存修復施設を6つ備えています。一般のお客様には「バックヤードツアー」により公開しています。



P21

1F

## エントランスホール

総合案内所やカフェなどを設置。館外には、しだれ桜の群生などを眺めることができる里山散策路や蓮池、東屋、茶室があります。



研修室AB



和室(研修室C)



オープンカフェ  
天井には九州各地の間伐材を使用

## 茶室



広間棟茶室「宝満亭」



小間棟茶室「吉兆庵」

P23



休憩所 授乳室 クローク 救護室 男性トイレ



九州国立博物館は、周囲の山並みに溶け込む穏やかな曲線を描いた外観が特徴です。



副館長  
山田 信吾

各フロアには展示室やホール、カフェ、ショップ、研究室、収蔵庫などがあり、様々な施設で構成されています。また、建物周辺は建設前からの自然を多く残しており、四季折々の表情を楽しむことができます。

#### ○建築概要

事業主体：文化庁、福岡県、(財)九州国立博物館設置促進財団  
設計監理：菊竹・久米設計共同体  
設計期間：平成11(1999)年9月～平成13(2001)年3月  
施工期間：平成14(2002)年3月～平成16(2004)年3月

#### ○規模

東西160m×南北80m 地下2階・地上5階  
最も高い場所：36.1m 軒高：35.0m  
延面積：30,675㎡ 建築面積：14,623㎡  
土地面積：159,844㎡  
構造：鉄骨軸力ヴォールト構造(屋根)/S造・SRC造(地下部)/一部免震構造(博物館機能部)

1階には様々なイベントが行われるホールや、アジアを五感で体感できる展示等があります。大人から子どもまで楽しみながら学べるスペースです。

### ミュージアムホール

講演会やコンサートなど様々な催しを開催しています。貸施設としてご利用いただくこともできます。(有料)



P23

### あじっば

日本と交流があった国々の文化を五感で楽しむことができる体験型展示室です。



P13

### ミュージアムショップ

オリジナルグッズをはじめたくさんのラインナップにてお待ちしております。

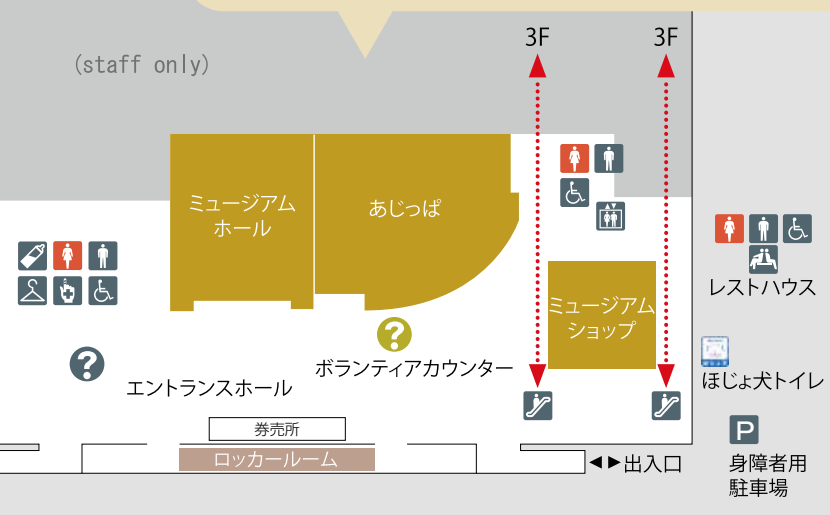


P23

## CONTENTS

|                     |    |
|---------------------|----|
| 文化交流展               | 5  |
| 特別展                 | 9  |
| 教育普及活動・ボランティア       | 13 |
| 調査・研究活動             | 15 |
| 国際交流                | 17 |
| 多彩なイベント             | 18 |
| 保管・収集               | 19 |
| 修復技術                | 21 |
| 免震構造                | 22 |
| 施設利用案内／<br>会員制度・出版物 | 23 |
| 施設情報／組織・沿革          | 25 |

(staff only)



第1駐車場(南側) P



# 文化交流展「海の道、アジアの路」



落ち着いた展示室が作品の魅力をひき立てる 文化交流展示室

## 来るたびに新たな出会い、

テーマは「海の道、アジアの路」

日本がアジア、ヨーロッパとの交流の中で育んできた歴史のドラマを体感できます

九州は、アジア大陸や朝鮮半島にもっとも近い場所に位置し、古くから交流の舞台となってきました。九州国立博物館では「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトのもとに、文化交流展示室（平常展）（床面積約3,900㎡）において、日本とアジアとの文化交流の歴史をご紹介します。

展示は、旧石器時代から江戸時代末期（開国）までを5つのテーマに分けて紹介。各時代の文化交流史に欠かせない作品を鑑賞できる「基本展示室」と、個別のテーマに焦点をあてた11の展示室から構成されています。

ほとんど毎週、どこかのケースで展示替えを行うことで常に新鮮な展示になるよう努めています。また、再現文化財（復元模造）や映像により、リアリティ溢れる展示が体験できます。

文化交流展示室は写真撮影が可能（一部を除く）。お気に入りの作品を撮ってSNSにアップするなどの楽しみかたもできます。

### column | テーマカラーで、もっと分かりやすく！



学芸部企画課長  
伊藤 信二

文化交流展示室の5つのテーマには、それぞれテーマカラーを設定しています。作品のひとつひとつにカラーバーを添えることで、どのテーマの作品か一目で分かるよう工夫しています。



作品のひとつひとつにカラーバーを添えています。

### 5つの基本展示室

#### 1 縄文人、海へ（3万5千年前～紀元前4世紀）

氷河期であった旧石器時代。人々は大型動物を狩り、植物を採集し、遊動生活をおくっていた。縄文時代には気候が温暖化し、森にはたくさんの木の実がなり、小型動物が現れ、海は豊かな漁場となった。人々は土器を作って食料を煮炊きし、定住生活をおくり、飾り、祈り、弔いも行った。サケなどの食料が豊富な東日本では、特に成熟した文化が花開いた。

#### 2 稲づくりから国づくり（紀元前4世紀～紀元後7世紀）

弥生時代、大陸から米作りや金属器が九州に伝わった。農作業を共同で行なう中で人々をまとめる首長が現れ、やがて地域を治める王になった。古墳時代には列島の大半を治める大王が現れた。大陸からは多くの人々が渡来し、乗馬の文化や須恵器製作の技術を伝えた。九州では石人や装飾壁画によって首長の死後の安寧を祈る独自の古墳文化が展開した。

#### 3 遣唐使の時代（7世紀～12世紀）

奈良時代の日本は、唐の都長安に遣唐使を送って、先進的な国家制度や仏教を学び、国際色豊かな品々を持ち帰った。大宰府はアジアとの外交・貿易の拠点として繁栄した。平安時代には、渡来の文化を基盤に、「仮名」に代表されるような日本独自の新しい文化が生まれた。仏教でも密教や極楽往生を願う信仰が流行し、未来に経典を残すために経塚が盛んに造られた。

#### 4 アジアの海は日々これ交易（12世紀～16世紀）

武士が台頭した鎌倉時代から室町時代にかけて、アジア諸国の貿易商人たちは大海原をさかんに往来した。京都や博多などの都市をはじめ、各地で商業が発達した。覇権を争った武士たちのあいだでは、禅僧が伝えた水墨画や茶などが富や権力の象徴として流行し、それはやがて日本の伝統文化を代表する茶の湯（茶道）へと発展した。

#### 5 丸くなった地球 近づく西洋（16世紀～19世紀）

室町時代の終わりと安土桃山時代は、ヨーロッパの大航海時代にあたる。アジアに進出してきたヨーロッパ人との交流を通じて、鉄砲やキリスト教が日本にもたらされ、日本からは銀や工芸品などが海を渡った。戦乱が終わり社会が安定した江戸時代、日本は長崎や対馬、琉球、蝦夷地を通じて世界とつながった。日本の磁器や漆器が世界を魅了した一方、国内でも世界への知識は広がり、蘭学など多彩な文化が育まれ、やがて訪れる近代への礎となった。

- A ガイダンスコーナー  
 C 第2室 アジアの民族造形—金子量重記念室—  
 E 第4室 多彩な埴輪  
 (「にぎやかな古墳のまつり」の一部)  
 B 遣唐使船復元模型  
 D 第6室 アジア人の理想の姿  
 F 新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」  
 (第9室にて開催)



## 11の展示室

### 第1室 寄贈者顕彰室

重要文化財「色絵松竹梅文瓶子」、重要文化財「日新除魔図」、「七宝地紋車軸釜」、その他の刀や釜など、当館にご寄贈いただいた貴重な文化財を展示します。

### 第2室 アジアの民族造形—金子量重記念室—

開館以来、約1,200点もの貴重なアジア民族造形コレクションを寄贈いただいた金子量重氏の名を冠した展示室。アジアが育んだ多彩で豊かな生活文化の結晶を楽しめる展示室です。

## 2 稲づくりから国づくり

### 第3室 倭人伝の世界

弥生時代の九州北部では、日本文化の基盤の一つとなった稲作文化が根つき、金属器等の物資が行き交いました。日本の国づくりを支えた技術や思想をご紹介します。

### 第4室 にぎやかな古墳のまつり

古墳の外周に立てられた埴輪や石人などの造形は、古墳時代の息づかいを今に伝える歴史の証人。当時の人々のくらしや死者への想いをかいま見ることができます。

### 第5室 映像シアター

内部への立ち入りが制限されている装飾古墳の中に入っていくような映像や、大宰府の紹介映像を上映しています。(随時入室可能。)

## 3 遣唐使の時代

### 第6室 アジア人の理想の姿

アジアの人々が理想の人間の姿を求め続けた証である仏像。優美で荘厳な仏教彫刻や絵画など、仏教美術の多様な世界とアジア的な展開を心ゆくまで堪能ください。

### 第7室 アジアを旅する

アジアの国や地域、時代にとらわれない、親しみやすいテーマを毎回設定し、当館の収蔵品を中心とした展示を行います。まるでアジアを散歩するかのように、お気軽にお楽しみください。

### 第8室 遣唐使とシルクロード

遣唐使があこがれた長安やシルクロード交易の様子を、ユーラシア各地からの出土品を通してご紹介します。遣唐使船の積み荷を復元した体験型展示も見どころです。

## 4 アジアの海は日々これ交易

### 第9室 交流する中世の人とモノ

アジア諸国で展開した歴史と文化について、その独自性や共通性を美術品や歴史資料を通してご紹介します。

## 5 丸くなった地球 近づく西洋

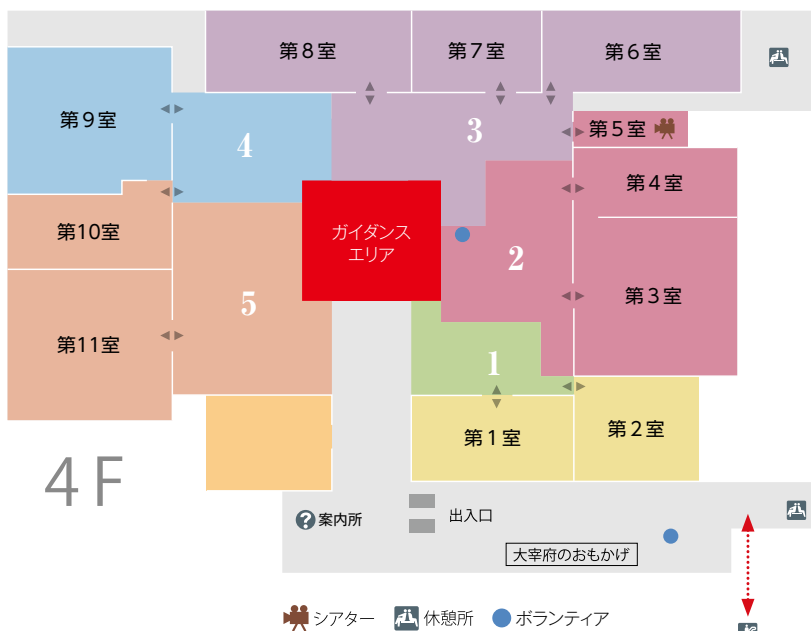
### 第10室 九州陶磁の華—田中丸コレクション—

実業家であり陶磁器収集の大家としても知られている田中丸善八氏が集めた九州の陶磁器を展示。名品の数々をご覧ください。

### 第11室 多彩な江戸文化

江戸時代の華麗で多彩な展開を物語る美術品・工芸品の数々を展示。長崎や琉球など、交流が生み出した造形品にも光を当てます。

## 展示室マップ



日本とアジアの文化交流に触れ、  
**先人の息吹を体感**



# 文化交流展「特集展示、特別公開、きゅーはくツアー」

期間限定で行う独創的な展示で、展示室をさらに華やかに彩ります。

## 令和5年度の特集展示、きゅーはくツアー PICK UP



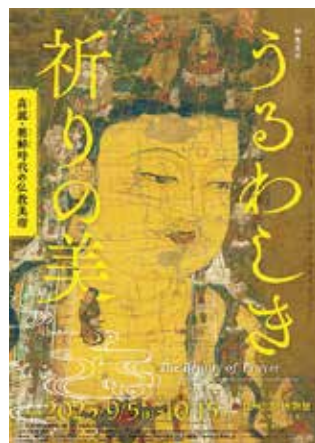
### 特集展示 誕生250年記念 秋田蘭画ことはじめ

令和5(2023)年4月29日(土・祝)～6月11日(日)

江戸絵画にリアリズムの新風を吹き込んだ秋田蘭画は、いまから250年前の安永2(1773)年に秋田藩の藩主・佐竹曙山と藩士・小田野直武が博物学者・平賀源内と出会い、翌年に直武が『解体新書』の挿図を描いたことをきっかけに作り上げられました。本展では、秋田蘭画の誕生250年を記念し、このジャンルの優れたコレクションで知られる秋田市立千秋美術館の名品を一堂に公開しました。

#### ◎主な展示作品

- ・『解体新書』巻之首 杉田玄白等訳・小田野直武画 江戸時代・安永3(1774)年 秋田市立千秋美術館
- ・獅子図 小田野直武筆 江戸時代・18世紀 秋田市立千秋美術館
- ・鷹図 小田野直武筆・東洲賛 江戸時代・18世紀 個人蔵(秋田市立千秋美術館寄託)



### 特集展示 うるわしき祈りの美—高麗・朝鮮時代の仏教美術—

令和5(2023)年9月5日(火)～10月15日(日)

朝鮮半島に仏教が伝来したのは4世紀のことです。以来、仏教はこの地に暮らす人々の心の拠りどころとなり、文化や思想に影響を与えました。なかでも独自の美を発展させたのが高麗と朝鮮で、多くの仏像や仏画がつくられました。本展では、およそ千年にわたる高麗・朝鮮時代のうち、11～16世紀におよぶ時期の仏教美術作品を展示し、それぞれが持つ歴史的な背景や物語を紹介しました。

#### ◎主な展示作品

- ・重要文化財 楊柳観音像 高麗時代・至大3(1310)年 佐賀・鏡神社
- ・重要文化財 地藏菩薩像 高麗時代・13～14世紀 神奈川・円覚寺
- ・青磁陰刻柳蘆水禽文淨瓶 高麗時代・12世紀 大阪市立東洋陶磁美術館



### 特集展示 日本刀の美—北崎徹郎の愛刀—

令和6(2024)年1月30日(火)～4月14日(日)

令和4(2022)年度、九州国立博物館は計31件の刀剣類の寄贈を受けました。寄贈者の故北崎徹郎氏は、北九州市で長年にわたり地域医療に専心するかたわら、古典文学や美術に対する造詣を深めつつ日本刀の収集に情熱を注ぎました。本展では、北崎氏が生涯をかけて収集した名刀の数々を初公開するとともに、刀剣用語についても分かりやすく解説しました。

#### ◎主な展示作品

- ・太刀 銘貞綱 平安時代・12世紀 九州国立博物館
- ・太刀 銘豊後国定秀作 平安時代・12世紀 九州国立博物館
- ・短刀 銘国光 鎌倉時代・13世紀 九州国立博物館



### きゅーはく新春ツアー 龍をさがせ!

令和6(2024)年1月1日(月・祝)～2月4日(日)

十二支の動物として現代の私たちにもなじみ深い龍は、はるか古代から立体像や絵やデザインに表現されてきました。本企画では、令和6(2024)年の干支にちなみ、文化交流展示室のあちこちに龍をモチーフにした作品を展示することで、地域や時代、分野を超えてあらわされる龍の意匠をお楽しみいただきながら、辰年ののはじまりをお祝いしました。

#### ◎主な展示作品

- ・国宝 梵鐘 飛鳥時代・7世紀 福岡・観世音寺
- ・ウンスンカルタ 江戸時代・17世紀 九州国立博物館
- ・重要文化財 仏涅槃図 命尊筆 鎌倉時代・元亨3(1323)年 九州国立博物館



# 文化交流の深層へ



文化交流展示室展示風景(多宝千仏石幢)



開館15周年記念特別映像「大宰府と大伴旅人」(映像シアター)

## ミュージアム・トーク、きゅーはく☆とおき講座

九州国立博物館の研究員による展示解説を開催しています。

・ミュージアム・トーク

実施日時: 1・3・5週の火曜日(原則)(午後3時から30分程度)

場 所: 文化交流展示室内

聴 講 料: 無料(ただし文化交流展の観覧料は必要です。)

・きゅーはく☆とおき講座

実施日時: 年4~6回 60~90分

場 所: ミュージアムホール

聴 講 料: 無料

これまでの内容

- ・沖ノ島から来た宝物たち
- ・高麗のぶつぞうのヒミツ
- ・三彩物語
- ・曲水の宴〜伝説の飲み会〜
- ・腹の虫がおさまらない!〜室町・戦国時代の医学書〜



## column | 研究員が楽しく解説!

ミュージアム・トーク、きゅーはく☆とおき講座では、研究員がイチオシする展示や作品について、その見どころや時代背景、最新の研究成果などを熱く語っています。裏話や歴史秘話もとび出します。トーク終了後は質問もお受けします。

また、YouTubeの「kyuhakuchannel」でも、館員が出演するわかりやすくして面白い解説動画を随時更新しています。こちら、ぜひお楽しみください。



展示課長  
齋部 麻矢



# 特別展



特別展「アール・ヌーヴォーのガラス ―ガレとドームの自然賛歌―」の展示風景

## 特別展は世界の美と知が集結した、感動の宝庫。

年に数回開催する特別展では、様々なテーマのもと、国内外の優品を選びすぐてご紹介します。展示の切り口も毎回趣向を凝らし、初めての方でも十分に楽しめる、よく知っている方は更に楽しめる展覧会を目指しています。

### 令和6年度のスケジュール



国宝 埴輪 挂甲の武人  
東京国立博物館蔵

R7(2025).1.21~5.11

### 挂甲の武人 国宝指定50周年記念／九州国立博物館開館20周年記念 はにわ

※展覧会の開催および会期は変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※照明設備の改修等のため、令和6(2024)年4月1日(月)～令和6(2024)年12月(予定)は3階特別展示室を閉室いたします。



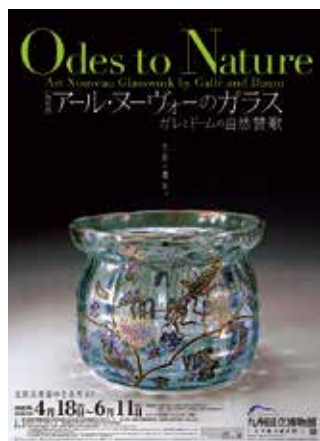
重要文化財 埴輪 鹿  
九州国立博物館蔵

# “特別”な美と知の世界



様々なテーマで開催される特別展は九州国立博物館の一大イベント。  
その貴重な展示品と斬新な企画は、広く注目を集めています。

## 令和5年度の特別展



### アール・ヌーヴォーのガラス —ガレとドームの自然賛歌—

令和5(2023)年4月18日(火)~6月11日(日)(49日間) 入場者数49,485人

九博はじめてのヨーロッパ工芸展！

日本美術から多大な影響を受けて誕生したアール・ヌーヴォー。この運動を牽引したガラス作家エミール・ガレとドーム兄弟による名品の数々を、世界屈指のコレクションを誇る北澤美術館の所蔵品から紹介しました。



### 憧れの東洋陶磁 —大阪市立東洋陶磁美術館の至宝

令和5(2023)年7月11日(火)~9月3日(日)(49日間) 入場者数20,851人

世界有数の東洋陶磁コレクションから名品を一挙公開！

国宝「油滴天目」をはじめ、貴重な東洋陶磁コレクションを擁する大阪市立東洋陶磁美術館。本展では、その所蔵品から国宝、重要文化財を含む全88件を公開し、第一級の絵画、考古資料を合わせて、日本と東洋陶磁の長い歴史と深い繋がりを紹介しました。



### 古代メキシコ —マヤ、アステカ、テオティワカン

令和5(2023)年10月3日(火)~12月10日(日)(60日間) 入場者数88,895人

日本美術とは異質で鮮烈な印象を与える、古代メキシコ文明展の決定版！

3千年以上にわたり繁栄したメキシコの古代文明。本展では、そのうちマヤ・アステカ・テオティワカンという代表的な古代文明に焦点を当て、アジア初公開となるレイナ・ロハ(赤の女王)のマスクをはじめ約140件を紹介。多様な環境から生み出された独自の世界観と造形美を通して、古代メキシコ文明の奥深さと魅力に迫りました。



### 生誕270年 長沢芦雪 —若冲、応挙につづく天才画家

令和6(2024)年2月6日(火)~3月31日(日)(48日間) 入場者数83,080人

「奇想の画家」の初期から晩年までの名品を一堂に公開！

長沢芦雪(1754~99)は18世紀後半の京都を拠点に活躍した画家で、現在でも国内外で高い人気を誇ります。本展は、その芦雪の画業をたどる九州で初めての本格的な展覧会です。代表作の龍虎図(和歌山 無量寺・串本応挙芦雪館所蔵)をはじめとする作品64件を公開し、芦雪の持ち味である奇抜な着想と、多彩で自由な表現を紹介しました。



学芸部長  
白井 克也

## column | 特別展がはじまるまで・・・

特別展は、数年、ときにはそれ以上に及ぶ研究員の調査研究成果を示すものです。社寺の名宝や、九州を中心とした国際交流、さらに西洋美術まで、幅広く取り上げてきました。展覧会を楽しく、わかりやすくするため一工夫を加えるのが、九博の特徴です。



# 特別展「特別展 HISTORY」



平成17年度 (2005)

美の国 日本

10.16~11.27(43日間) 441,938人

中国 美の十字路

平成18(2006)1.1~4.2(80日間) 251,963人



平成18年度 (2006)

うるま ちゅら島 琉球

4.29~6.25(51日間) 177,478人

南の貝のものがたり

7.29~9.3(37日間) 63,560人

海の神々

10.8~11.26(45日間) 139,981人

若沖と江戸絵画

平成19(2007)1.1~3.11(62日間) 300,171人



平成19年度 (2007)

未来への贈りもの

4.10~6.10(54日間) 77,380人

日本のやきもの

7.7~8.26(46日間) 50,986人

本願寺展

9.22~11.18(51日間) 197,697人

京都五山 禅の文化展

平成20(2008)1.1~2.24(49日間) 171,336人



平成20年度 (2008)

国宝 大絵巻展

3.22~6.1(64日間) 131,197人

島津の国宝と篤姫の時代

7.12~8.24(40日間) 152,420人

国宝 天神さま

9.23~11.30(61日間) 174,698人

工芸のいま 伝統と創造

平成21(2009)1.1~3.16(65日間) 72,637人



平成21年度 (2009)

聖地子ベツ

ボタラ宮と天空の至宝

4.11~6.14(58日間) 140,917人

興福寺創建1300年記念

国宝 阿修羅展

7.14~9.27(68日間) 711,154人

古代九州の国宝

10.20~11.29(37日間) 72,741人

京都妙心寺

一禅の至宝と九州・琉球

平成22(2010)1.1~2.28(52日間) 130,231人



平成22年度 (2010)

パリに咲いた古伊万里の華

4.6~6.13(61日間) 84,738人

馬 アジアを駆けた二千年

7.13~9.5(48日間) 42,022人

誕生! 中国文明

10.5~11.28(48日間) 53,409人

没後120年 ゴッホ展

平成23(2011)1.1~2.13(42日間) 354,311人



平成23年度 (2011)

黄檗—OBAKU

3.15~5.22(61日間) 55,539人

よみがえる国宝

—守り伝える日本の美

6.28~8.28(54日間) 118,528人

草原の王朝 契丹

—美しき3人のプリンセス

9.27~11.27(54日間) 75,880人

細川家の至宝

—珠玉の永青文庫コレクション

平成24(2012)1.1~3.4(56日間) 113,290人



平成24年度 (2012)

平山郁夫 シルクロードの軌跡

—人類の遺産にかけた画家の人生—

4.3~5.27(49日間) 110,047人

美のワンダーランド

十五人の京絵師

7.10~9.2(49日間) 75,415人

ベルリン国立美術館展

—学べるヨーロッパ美術の400年—

10.9~12.2(51日間) 224,324人

ボストン美術館

日本美術の至宝

平成25(2013)1.1~3.17(66日間) 236,725人



平成25年度 (2013)

大ベトナム展

4.16~6.9(49日間) 71,192人

中国 王朝の至宝

7.9~9.16(62日間) 77,554人

尾張 徳川家の至宝

10.12~12.8(50日間) 139,448人

国宝 大神社展

平成26(2014)1.15~3.9(47日間) 89,561人



平成26年度 (2014)

華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝

—京都・陽明文庫展

4.15~6.8(49日間) 60,808人

クレーブランド美術館展

—名画でたどる日本の美

7.8~8.31(49日間) 70,794人

台北 國立故宮博物院

—神品至宝—

10.7~11.30(51日間) 256,070人

古代日本と百済の交流

—大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—

平成27(2015)1.1~3.1(52日間) 59,629人



平成27年度 (2015)

戦国大名

—九州の群雄とアジアの波濤—

4.21~5.31(37日間) 77,455人

大英博物館展

—1000のモノが語る世界の歴史

7.14~9.6(49日間) 133,174人

美の国 日本

10.18~11.29(40日間) 160,753人

黄金のアフガニスタン

—守りぬかれたシルクロードの秘宝—

平成28(2016)1.1~2.14(42日間) 67,641人



平成28年度 (2016)

始皇帝と大兵馬俑

3.15~6.12(79日間) 191,222人

東山魁夷

自然と人、そして町

7.16~8.28(39日間) 133,002人

京都 高山寺と明恵上人

—特別公開 鳥獣戯画—

10.4~11.20(45日間) 161,172人

宗像・沖ノ島と大和朝廷

平成29(2017)1.1~3.5(56日間) 75,966人





#### 平成29年度(2017)

タイ〜仏の国の輝き〜

4.11〜6.4(49日間) 56,314人

世界遺産 ラスコール展  
クロマニヨン人が見た世界  
7.11〜9.3(49日間) 118,555人

新・桃山展  
一大航海時代の日本美術  
10.14〜11.26(38日間) 87,413人

王羲之と日本の書  
平成30(2018)2.10〜4.8(50日間) 70,110人



#### 平成30年度(2018)

至上の印象派展  
ビュールレ・コレクション  
5.19〜7.16(54日間) 198,489人

オークラコレクション  
10.2〜12.9(58日間) 63,069人

京都・醍醐寺  
一真言密教の宇宙—  
平成31(2019)1.29〜3.24(48日間) 74,748人



#### 平成31(令和元)年度(2019)

京都 大報恩寺  
快慶・定慶のみほとけ  
4.23〜6.16(49日間) 53,524人

室町將軍  
—戦乱と美の足利十五代—  
7.13〜9.1(45日間) 86,399人

日中文化交流協定締結40周年  
特別展「三国志」  
10.1〜令和2(2020)1.5(77日間) 140,155人

ルネ・ユイグのまなざし  
フランス絵画の精華 大様式の形成と変容  
令和2(2020)2.4〜3.29(48日間) 45,636人



#### 令和2年度(2020)

奈良・中宮寺の国宝

令和3(2021)1.26〜3.21(48日間) 50,432人  
※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、  
特別展開催の中止や延期などの変更が生じました。



#### 令和3年度(2021)

御大典記念 特別展  
よみがえる正倉院宝物  
—再現模造にみる天平の技—  
4.20〜6.13(49日間) 18,157人

皇室の名宝—皇室と九州をむすぶ美—  
7.20〜8.29(37日間) 43,197人

海幸山幸—新りと恵みの風景—  
10.9〜12.5(50日間) 17,383人

伝教大師1200年大遠忌記念  
最澄と天台宗のすべて  
令和4(2022)2.8〜3.21(37日間) 29,518人



#### 令和4年度(2022)

北斎  
4.16〜6.12(51日間) 135,955人

沖縄復帰50年記念 特別展 琉球  
7.16〜9.4(45日間) 41,054人

ポンペイ  
10.12〜12.4(48日間) 79,919人

加耶  
令和5(2023)1.24〜3.19(48日間) 26,990人



#### 令和5年度(2023)

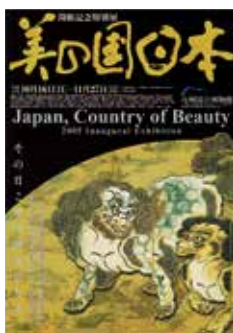
アール・ヌーヴォーのガラス  
—ガレとドームの自然賛歌—  
4.18〜6.11(49日間) 49,485人

憧れの東洋陶磁  
—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝—  
7.11〜9.3(49日間) 20,851人

古代メキシコ  
—マヤ、アステカ、テオティワカン—  
10.3〜12.10(60日間) 88,895人

生誕270年 長沢芦雪  
—若冲・応挙につづく天才画家—  
令和6(2024)2.6〜3.31(48日間) 83,080人

## 過去の特別展 PICK UP



## 美の国 日本

平成17(2005)年10月16日〜11月27日(43日間)  
入場者数:441,938人

開館記念の特別展。

ふだんは気づかない美しき日本の文化にふれる

九州国立博物館の開館記念として開催された特別展「美の国 日本」。東アジアの一国家として成立した古代日本の文化財、また、大航海時代のさなかの西洋諸国との交流から生まれた安土・桃山時代の文化財から、国宝7件・重要文化財30件を含む122件を選びめぐってご覧いただきました。なお、平成27年度には、開館10周年記念としてふたたび「美の国 日本」を開催しました。

## column | 訪れる人を とりこにする至宝の数々

日本やアジアの歴史や文化を中心に、西洋をテーマとしたものまで数多くの特別展を開催してきました。世の中の動きに合わせ、展覧会のテーマに関連するイベントやさまざまな情報発信を充実させ、皆様にとってより満足度の高い展覧会を目指します。また文化交流展では、特別展と関連する展示もしばしば企画していますので、あわせてお楽しみください。



副館長  
小泉 恵英





# 教育普及活動・ボランティア



見て、触って、体感する博物館

## 学校よりも面白く、 教科書よりもわかりやすい

五感で体感できる展示や独自の教育普及プログラムを展開。  
ボランティアとともに、教育や地域社会への貢献に向け努力しています。

### あじっば

1階にある無料の体験型展示室「あじっば」。「あじっば」とは、“アジアのはらっぱ”という意味で、ここでは日本と交流のあったアジアやヨーロッパの国々の文化を五感で体験することができます。

お様が初めて博物館に出会う場所として、また、ご家族で一緒に楽しんでいただけるように、展示内容やデザインに工夫を凝らしています。



#### あじ庵

季節等に合わせたあじっばの中でも特に注目してもらいたいものを展示しています。



#### あじぎや

時期によりテーマを定めて展示。学芸員や考古学者の体験を行うこともできます。



#### たなだ

色々な国の街の音や音楽を聞いたり、ものづくりの様子を見たりすることができます。



### きゅうぱっく

九州国立博物館の所蔵品をベースに開発した学習支援ツールで、学校の授業での活用を主な目的としています。トランクいっぱい詰められた実物資料や最新技術を駆使したレプリカなどを利用して、博物館にいるかのような体験をどこでも味わうことができます(全部で16種類)。

授業の他にも学校行事・研修会、博物館見学の事前学習等にご利用いただき、「ほんもの」に触れる感動を味わってください。なお、貸出は無料です。※直接受け取り・返却ができない場合には、往復の輸送費のみ負担していただきます。(P23も参照)





## 多様な来館者のためのプログラム

展示のみならず博物館の楽しみ方や魅力を知っていただくため、幅広いお客様が参加できるプログラムに取り組んでいます。

昨年度は、弥生時代に北部九州で使われた甕棺（かめかん）という棺のレプリカを使って、王を埋葬するワークショップ「王さまが死んだ！甕棺に入れよう」を実施しました。また、弥生時代から着用されてきた貫頭衣、古墳時代の衣装、平安時代初期の衣装を着る衣装体験イベント「古代人に変身！」も開催しました。

障がい者を対象としたイベントも多数開催しています。昨年度は視覚障がい者向けのガムランワークショップや聴覚障がい者向けのバックヤードツアーなどを実施しました。

博物館に来ることができない方のためのアウトリーチ活動として「きゅーはくきやらばん」も実施しています。

また新たに、光や音、においなどに敏感な人のための「あんしんマップ」を製作しました。

### 主な実績



**甕棺墓埋葬体験ワークショップ  
「王さまが死んだ！  
甕棺に入れよう」**

亡くなった王を甕棺に埋葬する体験。やさしい日本語で実施。



**衣装体験イベント  
「古代人に 変身！」**

弥生時代、古墳時代、平安時代初期の衣装を着る体験。



**視覚障がい者向け  
ガムランワークショップ**

インドネシアの楽器ガムランの響きを聴いたり、演奏したりする体験



**聴覚障がい者向け  
手話通訳付きバックヤードツアー**  
普段は入れない場所を手話通訳付きで案内。



**アウトリーチ活動  
きゅーはくきやらばん**  
館外での楽器や衣装の体験。



**あんしんマップ**

事前に苦手なところや休めるところを確認できるマップ。

## ボランティア活動

九州国立博物館の太宰府への誘致・設立にあたっては、地元住民の熱心な応援が決め手となりました。こういった流れを汲み、「地域・市民とともに歩む」当館では、ボランティアは博物館の象徴的な存在となっています。“博物館に来てくれた人に歴史や文化に親しんでもらいたい”、“もっと博物館を楽しんで欲しい”という熱い思いで来館者と一緒に博物館を楽しむボランティアによって九州国立博物館は支えられています。

ボランティアは、展示解説、教育普及、館内案内など12のグループに分かれて多彩な活動を行っています。

### 各ボランティア部会の活動内容

|                   |                                                         |
|-------------------|---------------------------------------------------------|
| 展示解説              | 文化交流展示室の展示物の案内。<br>予約団体（一般団体・学校）および当日受付（個人・グループ）に対応。    |
| 教育普及              | 体験型展示室「あじば」での来館者の対応。<br>参加体験型のものづくりワークショップなどの企画・実施。     |
| 館内案内<br>(外国語案内含む) | 館内の概要・施設案内、バックヤードツアーの案内。<br>外国語案内は、英・中・韓国語での館内の概要・施設案内。 |
| 環境                | IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。                                 |
| 資料整理              | 郷土人形の調書の作成・データ化および「あじぎやら」での企画展示。                        |
| イベント・サポート         | 広報誌の作成や来館者対象イベントの企画・実施                                  |
| 学生                | 高校生・大学生によるイベントの企画・実施。                                   |
| フィールド             | 散策路の維持管理・山林の保全活動。                                       |
| 手話                | 地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がい者対応などを支援。                       |



### column | 大人気のバックヤードツアー



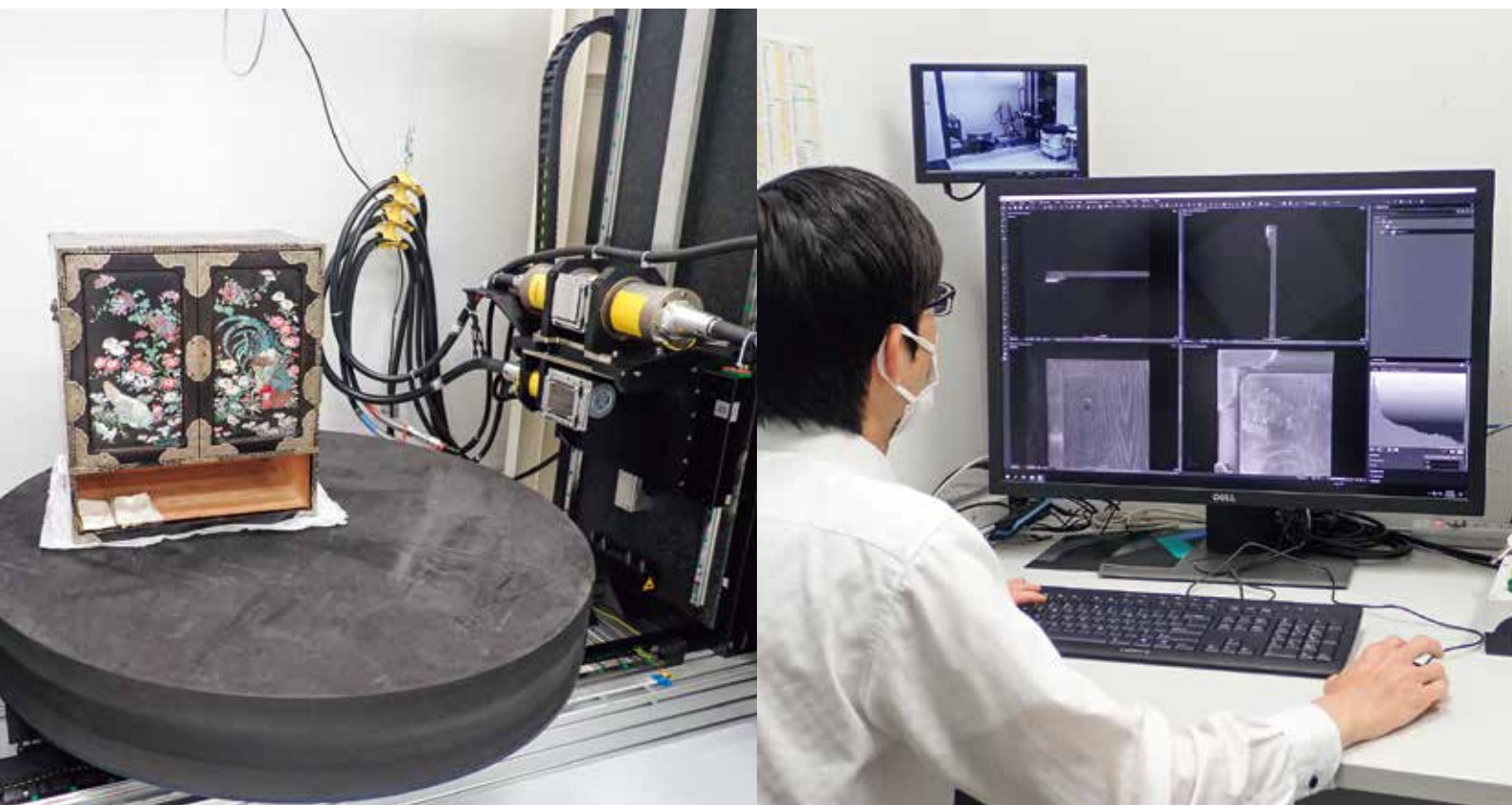
総務課長  
為近 雄一郎

館の職員以外は決して立ち入ることができない博物館の内側。

ここには、収集した文化財を保管する収蔵庫や最新の技術で文化財を守る保存修復施設等の博物館の心臓部と言うべきものがあります。普段は見ることができないこれらの施設・設備を館内案内ボランティアがわかりやすくご案内するバックヤードツアーは大変好評をいただいています。

文化財を「集める」「守る」「展示する」博物館の仕事の一端をぜひご覧ください。





## 新たな発見を求めて

**熱い探究心と精力的な調査・研究活動が、神秘の扉をひらく。**

九州国立博物館では、現在およそ30名の研究員が日々活動しています(令和6年4月1日現在)。研究員は各自の専門性を活かしながら、博物館全体の機能に沿った役割を担っています。また、国内外の研究者・専門家と広くネットワークを築きながら常に新たなフィールドに向けて走り続けています。

### 科学研究費助成事業(科研費)

文部科学省および独立行政法人日本学術振興会が実施するこの事業は、日本国政府全体の競争的資金(研究者が応募した研究計画を審査することにより配分される資金)の5割強を占める、国内最大規模の制度です。

国立博物館もひとつの研究機関として、このような外部からの資金を確保しそれを有効活用することで、より幅広く先進的な研究成果を国民の皆さまに還元できるよう努力しています。

#### 採択実績 令和6年度科学研究費助成事業採択研究課題一覧

(令和6年4月1日時点)

| 研究代表者 | 所属部局・職名       | 研究種目               | 研究課題名                                    | 研究期間(年度) |
|-------|---------------|--------------------|------------------------------------------|----------|
| 富田 淳  | 館長            | 基盤研究(B)            | 中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究                | R2~R6    |
| 木川 りか | 博物館科学課長       | 基盤研究(B)            | 博物館資料や包材から発生する有機酸、硫黄化合物等の放散量・影響調査と対策の検討  | R6~R9    |
| 川畑 憲子 | 企画課特別展室長      | 基盤研究(C)            | 中国製鎗金器の基盤的研究-東アジアにおける漆器の相互的影響-           | R3~R7    |
| 松浦 晃佑 | 文化財課主任研究員     | 基盤研究(C)            | 近世大名家伝来コレクションの基礎的研究-松浦家コレクションの分析を通じて-    | R3~R7    |
| 野尻 忠  | 文化財課長         | 基盤研究(C)            | 日本古写経の所在情報の収集と分析に基づく仏典の伝播・伝来の研究          | R6~R8    |
| 李 梅   | 企画課アソシエイトフェロー | 基盤研究(C)            | 中国天水麦積山石窟壁画・編年の新研究                       | R6~R8    |
| 渡辺 祐基 | 博物館科学課研究員     | 若手研究               | 数理モデルと非破壊評価法に基づく文化財害虫の検出精度の向上            | R4~R6    |
| 木川 りか | 博物館科学課長       | 国際共同研究加速基金(海外連携研究) | 日本絵画に用いられる色材の光褪色挙動の詳細分析と褪色計算オンラインソフトでの利用 | R5~R8    |



## 基盤研究(B)中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究

現代に伝えられる中国の書跡や絵画には、作品の内容や伝来を伝えるさまざまな痕跡が盛り込まれています。例えば、作品を鑑賞し収蔵した鑑蔵家たちは、自らの想いを題跋として書きつけ、鑑蔵印を押してきました。保存箱にも箱書きがあり、箱の中には添状が収められている場合もあります。それらの付属資料は、美術的・文学的・歴史的に、それぞれ固有の学術的価値を持っています。

しかしながら、従来は本体のみに焦点が当てられ、題跋等の付属資料は等閑に付されてきました。本研究は、付属資料に目を向け、題跋等の個別研究の発展可能性を示し、その学術的価値を新たに発見・周知しようとするものです。



台東区立朝倉彫塑館での調査



京都国立博物館での調査



兵庫県立美術館での調査

## 独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター

近年、頻発している巨大地震や台風、豪雨などの災害は私たちの暮らしだけではなく、各地の文化財にも甚大な被害を及ぼしています。国立文化財機構は、今後の災害に備えて大切な文化財を未来に伝えるため、令和2年10月1日に文化財防災センターを設置しました。文化財を被災しないようにする減災、災害発生時の文化財の救援支援、被災文化財を迅速かつ効果的に救援するための体制づくりと技術開発、という3つのミッションを核に活動しています。

当館では、これまでも九州の自治体、ミュージアム、専門機関等とのネットワーク構築を進めてきました。平成28年の熊本地震の際は、被災した文化財を救出する文化財レスキュー事業の事務局として活動しました。近年は九州各地で発生した豪雨被害にかかる救援支援を行うほか、自治体等からの依頼により、被災文化財の応急処置のワークショップ、災害対策の課題に関する講義を文化財行政職員や学芸員向けに実施するなど、文化財防災についての普及・啓発活動に努めています。



水損書画の初期処置ワークショップ



埋蔵文化財センターにて文化財防災をテーマにした講習

## column | 研究成果の公表



学芸部博物館科学課長  
木川 りか

日頃から行っている研究成果の一部を、展示や講演会、シンポジウム、研究紀要「東風西声」などの形で国民の皆さまに公開しています。最近では、CTを用いて調査した文化財の構造上の特徴を広く公開するため、CTデータを基にした精巧なレプリカを教育普及に活用しています。

新しい発見があったときのおもしろさ、ワクワク感を体験していただけるよう、これからも九博は進化していきます！



三次元計測結果をもとに作成されたハンズ・オン展示資料



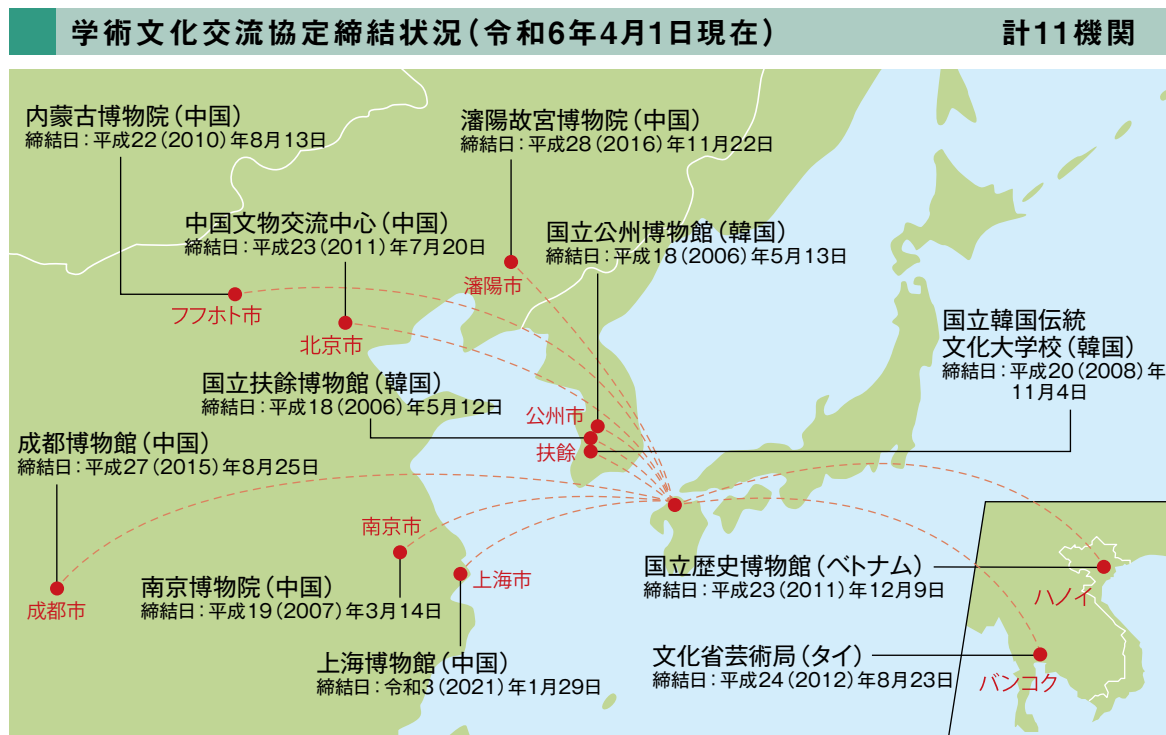
# 国際交流

## 世界と繋がる博物館へ

**文化と芸術が日本と世界を繋ぐ架け橋に。  
アジア各地の博物館等との積極的な交流推進に取り組んでいます。**

九州国立博物館は、アジア諸国との文化交流を推進する拠点としての役割を果たすため、海外の博物館等との学術交流、共同研究、研究者の派遣・受入や研修、国際シンポジウムの開催など交流事業に積極的に取り組んでいます。

韓国の国立扶餘博物館、国立公州博物館、国立韓国伝統文化大学校、中国の南京博物院、内蒙古博物院、中国文物交流中心、成都博物館、瀋陽故宮博物院、上海博物館、ベトナム国立歴史博物館、タイ王国文化省芸術局と学術文化交流協定を締結しており、今後も交流協定を礎として、新しい時代に向けた取り組みを推進していきます。



**アジア各国の博物館等と連携しながら、様々な事業を実施しています。**

### 国立扶餘博物館・国立公州博物館との交流事業



4年ぶりに人的交流事業を再開しました。相互に研究員を派遣して、各博物館の所蔵品と縁が深い考古資料の調査や障がい者対応の状況調査を実施しました。また、多くの博物館・美術館の展示を視察し、最新の展示手法について情報交換を行いました。

### タイ芸術局との学術交流



調査を継続的に実施している松浦市教育委員会と東北芸術工科大学の協力の下、海底遺跡から出土した木製品の保存処理方法の技術研修を行いました。

### ベトナム国立歴史博物館との学術交流



住友財団の助成を受け、共同で文化財の保存修復に取り組んでいます。

**国際交流員の活動を紹介します。**

### 留学生イベント



当館では毎年11月3日を「留学生の日」とし、留学生向けのイベントとして展示解説やバックヤードツアー、体験型ワークショップ等を実施しています。

### 九博SNSの多言語化



当館ではYouTubeやX(旧Twitter)等のSNSを活用し、情報を発信しています。これらを英語、中国語及び韓国語に翻訳することで、海外の方にも広く情報を発信できるよう多言語化に努めています。また、海外での利用者が多いFacebookでは、4カ国語(英・中・韓・日)で当館の魅力を発信しています。





書初め大会



東北3県の観光・物産展

## 一年を通して、誰もが楽しめる多彩なイベントの数々。

九州博物館では特別展や常設展示のほか、一年を通して、ミュージアムホールや茶室などを活用した様々な催しを開催しています。日頃から親しんでいただける場所となるよう、楽しい企画をご提案します。

### ■カフェコンサート

1階「Mカフェ」前で定期的に開催する、音楽科学生による室内楽の演奏会です。



### ■きゅーはくこどもの日まつり

ゴールデンウィーク期間中に開催する、お隣の太宰府天満宮やだざいふ遊園地と共に、家族で楽しめるイベントです。



### ■茶道体験会

茶室「宝満亭」で茶道初心者を対象として定期的に開催するほか、春の「さくら茶会」や秋の「紅葉茶会」など季節を感じる体験会を開催しています。



### ■伝統芸能ワークショップ

三味線や能楽など日本の伝統芸能を直に触れるワークショップのほか、講師によるミュージアムホールでの公演も鑑賞できます。



## column | 毎年恒例、飾り山笠の展示



交流課長  
高橋 剛太

国の重要無形民俗文化財に指定されている博多祇園山笠。平成28年には、国連教育科学文化機関(ユネスコ)による無形文化遺産にも登録されました。博多っ子の心意気を全国や海外から訪れる人に見てもらいたいという趣旨から、開館以来、飾り山笠の展示を毎年実施しています。飾り付けや御神入れは一般公開で行われるため、独特の緊張感や神聖な雰囲気が見学者にも伝わってきます。





# 保管・収集

収蔵庫内通路

## 貴重な文化財を 未来へ伝えるために

文化財は、過去の歴史と文化の結晶。その収集と保管は博物館としての大きな役割の一つです。収蔵品を丁寧・確実に管理し、未来への橋わたしをしています。

### 綿密に設計された 収蔵庫による保管

博物館は、先人の足跡である各種文化財を収集し、適切に保管する役割を担っています。

収集された文化財は、「収蔵庫」に保管されます。九州国立博物館の収蔵庫は建物の中心に位置していて、直接外部と接しないように空気層を設けた“二重構造(魔法びん構造)”です。また、空調設備は、恒温恒湿仕様の空調機を採用することにより、収蔵庫の中の温湿度を一定に維持しています。

さらに、収蔵庫の壁・天井には九州産の杉、また、床には北海道産のブナをそれぞれ使用しています。これにより、空調のみに頼らない湿度環境を保っています。

### IPM(総合的有害生物管理)

博物館にある多くの資料のうち、木材や紙、皮革、布をはじめとする有機素材は昆虫の住みかや餌となって損傷を受けやすく、この虫害から文化財を守ることも博物館の大切な役割のひとつです。

これまでは文化財害虫を強力な薬剤で駆除することが主でしたが、この薬剤がオゾン層破壊の原因になるとして国際的に使用全廃が決定されたことを受け、新たに取り入れられたのが予防に重点をおいたIPM(Integrated Pest Management)です。できるだけ薬剤に頼らず、人の目と手による日常の点検や清掃などの予防を第一にして、環境にやさしい方法で駆除するという管理の方法です。

九州国立博物館では建築中からIPMに積極的に取り組んでおり、その実施には多くの市民ボランティアも参加しているのが特徴です。これまで、科学研究費の獲得や文化庁の委託事業、補助金事業の採択を受けながら、IPM支援者の養成や研修プログラムの策定・実施などに努めてきました。

かけがえのない文化財を守り、次の世代へ渡していくことは私たち世代全体の責任です。今後も、日々の点検・清掃に努めていきます。



地元九州産の杉板で内装された調湿性能に優れた収蔵空間



収蔵庫  
各収蔵庫は、収蔵する文化財の大きさや材質・形状に応じて工夫されています。



収蔵庫の窓  
中身が見えるタイムカプセルです。



細やかな収蔵庫IPMメンテナンス  
文化財を虫カビ被害から守るために収蔵庫内についても精密な点検や清掃に努めています。



過去と現在をつなぐ文化財を、今ないうる最善の方法で未来に伝えていきたい。  
美術・工芸・考古・歴史など、広い視点から文化交流に関する資料を重点的に収集しています。

## 新収品

九州国立博物館では、日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古、歴史、民族資料等を重点的に収集しています。  
購入のほかに寄贈や寄託による受け入れも進め、九州国立博物館らしい切り口で積極的な活用に努めています。  
令和5年度には新たに10件を購入し、78件の寄贈を受けました。ここでは、その中のいくつかをご紹介します。

## 購入

### ①男神坐像 1編

重要文化財  
平安時代 12世紀

#### 【作品概要】

神像は、神仏習合が進んだ奈良時代に成立し、平安時代以降に造像が本格化しました。本像の顔立ちや奥行の薄い体つきは、平安時代後期・12世紀の神像の造形的特徴といえます。表面の彩色は当初のものをよく残し、当時の風習を今に伝える貴重な作例です。

本像と当館所蔵「女神坐像」は同じ木から彫り出され、同じ場所で祀られていたものと考えられており、今回、九博で再会を果たすことができました。



### ②短刀 銘左／筑州住 1口

重要文化財  
南北朝時代 14世紀

#### 【作品概要】

南北朝時代を代表する筑前の刀工、左の短刀。柄に収まる茎の部分に「左」の文字を刻むことから、この刀工は「左文字」とも呼ばれています。

本品は生茎に銘を刻んだ希少な作であるとともに、同工の短刀のなかでも最大の長さを誇り、帽子が乱れ込んで大きく突き上げて刃文の中に金筋・砂流しがはっきりと付いた、豪快かつ華やかな作です。



## 寄贈

### ③紺吉服地蔵袍 1領

18世紀  
金子国緒氏寄贈

#### 【作品概要】

蔵袍(チュバ)と呼ばれるチベット民族の衣服。本品の表地の錦はもともと、清代に宮廷用として官製工房で織られたもので、清朝の吉服袍をチュバに転用した貴重な例です。

官製工房で用いられる文様や織物には、身分に応じて、文様や地色に違いがありました。本品の表地には、五爪の蟒(龍と同型で皇帝の臣下が用いる際の呼称)があしらわれています。こういった裂地は、各地で交易品としても用いられていましたが、チベットは清朝と縁が深く、チベットの政治・宗教的指導者に下賜された吉服の可能性も考えられます。



## column | 文化財を守る 登録と管理

文化財の収集と保管は博物館の大きな役割の一つです。大切な文化財を後世まで長く受け継いでいくために、今ないうる最善の方法で管理しています。そのために欠かせないことのひとつが、文化財それぞれの情報収集と台帳登録です。どのような由来のものか、博物館に入ってからどこで保管され、どのように展示されてきたか、修理されたことがあるか、状態に変化がないか、文化財の歴史としてすべての情報を蓄積しているのです。



学芸部文化財課長  
野尻 忠



# 修復技術

- A フリーアームスタンドと顕微鏡による観察
- B 当館所蔵朱漆花鳥草樹螺鈿二層の修復
- C 当館所蔵重要文化財対馬宗家関係資料の修復
- D 当館所蔵仏涅槃図の修復
- E 精密三次元計測



## 千年前の文化を、千年後へ。 博物館科学を駆使した最新技術。

### 最新の博物館科学による保存と修復

X線CTスキャナ等の最先端技術により文化財を安全に調査し、その保存状態を明らかにした上で、現状を尊重した保存・修復を行っています。修復は6つの文化財保存修復施設(補修紙製作等、古文書・書跡・典籍、絵画、彫刻、考古、漆工)で行っています。

また、文化財に有害な生物を処理し、文化財を安全に保つための方法として、できる限り殺虫剤などを使用せず、環境にやさしい方法(低酸素濃度処理法や二酸化炭素処理法など)を採用しています。

### 紙文化財の修理 【重要文化財】対馬宗家関係資料

虫喰いの穴が見事に修復されています。



修理前(部分)



修理後(部分)

### 文化財修理の普及事業



職員も参加する寒糊吹き



古文書保存基礎講座



### X線CT調査 愛媛・等妙寺の菩薩遊戯坐像(伝如意輪観音)

X線CTスキャンによる解析で、像内の頸部に、約5.2cmの「木製八角五輪塔」があることが判明。その中には遺骨に見立てた金属質の物質(舍利)を納める。



3Dプリンタで製作した五輪塔



# 免震構造

安心の免震構造と省エネ対策。人・文化財の安全、そして自然環境を守ります。

## 3種類の免震構造

地震大国の日本において、地震による文化財の転倒、破損等を防ぐために、九州国立博物館の建物は「免震構造」になっています。これは地震の揺れが直に伝わるのを防ぎ、揺れを穏やかにするもので、建物内の展示室、収蔵庫は徹底的に守られています。平成17(2005)年3月、福岡県西方沖で発生した地震(震度4)においても特段の影響がなく、この構造の機能を果たしたことが証明されています。



免震層の見学(バックヤードツアー)

免震層＝



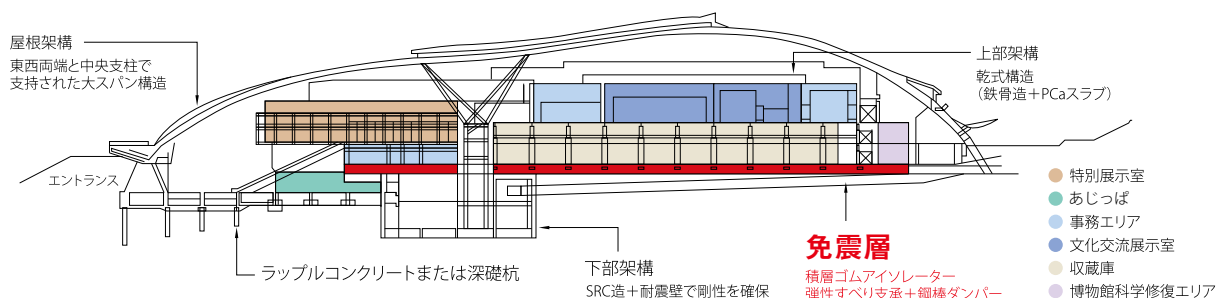
積層ゴムアイソレーター  
(147個)



弾性すべり支承  
(45個)



鋼棒ダンパー  
(40個)



## 博物館を取り囲む“ダブルスキン”

九州国立博物館の壁面には、ダブルスキンガラスを約3,100枚・約16,000㎡も使用しています。壁面のダブルスキン構造の幅は約1.5mあり、この空気層によって、外の温度が直接建物の中に伝わらないことにより結露を防止することに加え、2種のガラスで紫外線を99%カットしています。これにより、季節を問わず快適な内部環境を確保できます。また、ガラス窓を用いることで自然光を建物内に取り込み、周囲の山並みと調和した空間を演出するのにも一役買っています。



## 環境へ配慮した自然エネルギーの活用

九州国立博物館は省エネ・省資源対策を施した、環境に最大限に配慮した設計となっています。ここでは、その一部をご紹介します。

**太陽光発電設備** …最大で40kwの発電が可能です。



**屋根散水設備** …雨水を利用した設備。屋根裏の温度上昇を抑え、快適な内部環境を保ちます。

**雨水利用設備** …屋根に降った雨を地下の貯留層に貯め、ろ過後に便所洗浄水・植栽散水等に利用。

**太陽熱利用設備**  
(スカイランジェーターパネル) …太陽熱を集めて床の冷暖房に利用しています。

**エアワッシャ** …空気を水で洗う特殊な空調設備。収蔵庫、展示室系統に利用されています。

**地中熱利用** …外気の取り入れには、「アースチューブ方式」を採用。地下のコンクリートダクトに地上の外気を取り込み、これを館内の空調機やダブルスキンガラスの空気層に送り込みます。

腐食を防ぐチタン屋根

最新技術で  
歴史を守り、継承する。



# 施設利用案内

展示室以外にも魅力的な施設がたくさんあります。  
展示だけでなく、お食事に、お買い物に、イベントに、  
情報収集に、九州国立博物館をどうぞご利用ください。

広報課長  
野田 智子



## ミュージアムショップ



### 1階エントランス

ポストカードや文具をはじめ、お菓子やTシャツ、「きゅーはくの絵本」をはじめとした書籍など、たくさんさんのラインナップにてお待ちしております。  
092-918-8818  
九州国立博物館オンラインショップからも一部商品をお買い上げいただけます。  
<https://kyuhaku-museum.shop/>

## レストラン・オープンカフェ



### レストラン いい乃じ

福岡名産の八女茶、黒毛和牛など「九州の美味しい」を味わえる和食レストラン。  
営業時間 11:00~17:00  
(ラストオーダー フード16:00  
ドリンク16:30)  
TEL092-555-3099



### 九博庭園 足湯茶屋

レストラン「いい乃じ」に隣接し、足湯に入りながら、九州の銘茶と甘味、鰻むすびなどの軽食をお楽しみいただける和カフェ。  
営業時間 11:00~17:00  
(ラストオーダー 16:00)  
TEL092-555-3099



### Mカフェ

福岡県の伝統工芸品・小石原焼のコーヒークップやお皿を使い、福岡の八女茶や展示にちなんだ特別メニューを提供します。  
営業時間 10:00~17:00  
(ラストオーダー 16:30)  
TEL092-408-5777

## 有料施設

### 茶室

「宝満亭」と「吉兆庵」があります。宝満亭は日本文化を体験する場として茶会などに、吉兆庵は「茶の湯」の世界を体感する場として見学に利用できます。



### 研修室 A B

席数: 70席程度(机、椅子がある状態)  
広さ: 約121.8㎡(約14m×約8.7m)  
備考: 講演会や研修などに利用できます。  
半分に仕切って、片側だけの使用も可能です。  
(写真は研修室ABをつなげて使用した場合)



### 和室(研修室C)

席数: 26畳  
備考: 休憩などに利用できます。(飲食可)



### ミュージアムホール

席数: 288席  
広さ: ステージ部分  
約45.5㎡(約3.5m×約13m)  
ステージ以外  
約240.5㎡(約18.5m×約13m)  
椅子を外した場合(使用可能面積)  
約208㎡(約16m×約13m)  
備考: 講演会や展示などに利用できます。(飲食不可)



### 〈ご利用方法〉

各施設の利用料金や利用状況についてはお電話にてご確認ください。  
受付は、茶室・ミュージアムホールはご利用の4ヶ月前の初日から、研修室AB・和室はご利用の2ヶ月前の初日からお受けします。  
TEL092-929-3602 FAX092-929-3980 担当: 交流課

## その他の施設



散策路



虹のトンネル



駐車場



バリアフリー(ほじょ犬用トイレ)

## 学校貸出キット「きゅうぱっく」

九州国立博物館では、博物館に係る資料を学校の授業等で活用してもらうために、トランクに詰めた16種類の教材を用意しています。

- |                                     |                                    |                                      |
|-------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 縄文人、海へ     | <input type="checkbox"/> 誕生!! 中国文明 | <input type="checkbox"/> 稲づくりから国づくりへ |
| <input type="checkbox"/> 遣唐使の時代     | <input type="checkbox"/> イスラームの祈り  | <input type="checkbox"/> あじっば韓国      |
| <input type="checkbox"/> あじっば五感     | <input type="checkbox"/> さまざまな香辛料  | <input type="checkbox"/> 土器のいろいろ     |
| <input type="checkbox"/> 青銅器のいろいろ   | <input type="checkbox"/> 土偶~祈りのかたち | <input type="checkbox"/> 実践! 勘合貿易    |
| <input type="checkbox"/> 高麗の文化      | <input type="checkbox"/> さまざまな穀物   | <input type="checkbox"/> モンゴルの馬頭琴    |
| <input type="checkbox"/> 始めよう! 米づくり |                                    |                                      |

お申込みの前に、必ずお電話で予約状況をご確認の上、事前に予約をしてください。  
TEL092-929-3294 FAX092-929-3980  
担当: 交流課





# 会員制度・出版物

## 会員制度

九州国立博物館では、「来館者により良いサービスを提供する」「博物館により親しんでもらう」ことを目的として、国立博物館4館（九州・東京・京都・奈良）で連携した特典・制度を実施しています。  
また、教育機関を対象に「キャンパスメンバーズ」制度を実施しています。  
※最新情報は当館ホームページをご確認ください。

**国立博物館メンバーズパス** 一般2,500円/学生1,200円 ※発行日から1年間有効

### 特典

- ・国立博物館（九州・東京・京都・奈良）平常展の観覧料無料
- ・東京以外の国立博物館（九州・京都・奈良）特別展の割引観覧（団体料金）

**九州国立博物館 友の会** 年会費：7,500円 ※発行日から1年間有効

### 特典

- ・国立博物館（九州・東京・京都・奈良）平常展の観覧料無料
- ・九州国立博物館特別展の観覧料無料（計6回）  
（九州国立博物館特別展観覧券6枚）
- ・東京以外の他の国立博物館（京都・奈良）特別展の割引観覧（団体料金）

## キャンパスメンバーズ

九州国立博物館では、平成19年度から大学や専修学校等の教育機関を対象とした「キャンパスメンバーズ」制度を導入しています。本制度は、大学等と博物館との連携を深め、より博物館に親しんでいたく機会を提供することを目的としています。会員校の教職員・生徒を対象に様々な特典を提供し、教育・研究面での協力はもとより、文化財の鑑賞機会の充実に努めています。

| 年会費              | ※会費は税込   |            |
|------------------|----------|------------|
|                  | 1年間      | 3年間        |
| 250人未満           | 51,000円  | 131,000円   |
| 250人以上500人未満     | 103,000円 | 262,000円   |
| 500人以上1,500人未満   | 206,000円 | 524,000円   |
| 1,500人以上3,000人未満 | 309,000円 | 786,000円   |
| 3,000人以上5,000人未満 | 411,000円 | 1,048,000円 |
| 5,000人以上         | 514,000円 | 1,310,000円 |

## 九州国立博物館 賛助会

九州国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。いただいたご寄附は、収蔵品の購入や教育普及活動等の当館の活動を通じて、皆様とともに広く文化振興を行っていくために有効に活用させていただきます。

|      |                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 年会費  | ＜団体＞プレミアム会員：500万円以上、特別会員：100万円以上、維持会員20万円<br>＜個人＞プレミアム会員：100万円、特別会員：20万円、維持会員：5万円 |
| 主な特典 | ※会員の種類によって特典は異なります。<br>・文化交流展、特別展の無料観覧 ・特別展内覧会へのご招待<br>・季刊情報誌「アジアージュ」の送付 など       |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会員          | 令和6年4月現在                                                                                                                                                                                                                                         |
| 団体（プレミアム会員） | 公益財団法人九州国立博物館振興財団 様                                                                                                                                                                                                                              |
| 団体（特別会員）    | 福岡地所株式会社 様 太宰府天満宮 様                                                                                                                                                                                                                              |
| 団体（維持会員）    | 藤仲興産株式会社 様 正筆会 様<br>正見株式会社 様 国立大学法人九州大学 様<br>有限会社前田商会 様 筑紫ガス株式会社 様<br>株式会社テレビ西日本 様<br>一般社団法人太宰府観光協会 様<br>株式会社西日本新聞社 様<br>日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社 様<br>読売新聞西部本社 様 日本カルミック株式会社 様<br>朝日新聞社 様 光村図書出版株式会社 様<br>久留米運送株式会社 様 株式会社セルコン 様<br>株式会社丹青社 様 （他2社） |
| 個人（特別会員）    | 高木千鶴子 様 井茂圭洞 様 不老安正 様<br>榎本一彦 様 黒田賢一 様 （他1名） 様                                                                                                                                                                                                   |
| 個人（維持会員）    | 高木聖雨 様 山口耕雲 様 松元碩洲 様<br>松清秀仙 様 古木青翰 様 荒巻重彦 様<br>藪本俊一 様 藪本英介 様 齋田利実 様<br>石田勝世 様 鎌田迪貞 様 堀内洋志 様<br>矢次隆之 様 外間一智 様 鳥山玲 様<br>早田憲司 様 久枝良雄 様 黒石真紀子 様 （他6名）                                                                                               |
|             | *それぞれご入会順で掲載                                                                                                                                                                                                                                     |



**九州国立博物館 メンバースプレミアムパス** 一般3,800円/学生2,500円 ※発行日から1年間有効

### 特典

- ・国立博物館（九州・東京・京都・奈良）平常展の観覧料無料
- ・九州国立博物館特別展の観覧料無料  
（計4回まで。うち同一展は2回まで。5回目以降は割引観覧（団体料金）。）
- ・東京以外の他の国立博物館（京都・奈良）特別展の割引観覧（団体料金）

### 特典

- ・文化交流展（平常展）の観覧料無料
- ・特別展の観覧料金割引
- ・九州国立博物館メンバーズプレミアムパスの割引購入
- ・刊行物の無料提供
- ・博物館実習・出張講義等の優遇措置
- ・施設利用・イベント参加への優先
- ・レストラン・カフェ・ミュージアムショップの割引など

**キャンパスメンバーズ会員校 [21校]**（令和6年4月1日現在）

- [大 学] 九州産業大学、九州情報大学、九州大学、久留米大学、第一薬科大学、筑紫女学園大学、日本経済大学（福岡キャンパス）、福岡工業大学、福岡大学、放送大学福岡学習センター
- [短期大学] 九州産業大学造形短期大学部、福岡工業大学短期大学部、福岡女子短期大学
- [専門学校] 久留米大学医学部附属臨床検査専門学校、岡岡栄養士専門学校
- [高 校] 久留米大学附属高等学校、筑紫女学園高等学校、筑紫台高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、福岡大学附属大濠高等学校、福岡大学附属若葉高等学校  
\*それぞれ50音順で掲載

## 出版物

当館の活動を広く理解してもらうために様々な出版物を製作しています。



**研究紀要「東風西声」**  
調査研究成果を冊子にしたもの（年1回発行）。



**季刊情報誌「アジアージュ」**  
特別展・文化交流展の紹介を中心とした広報誌（年4回発行）。



**特別展図録**  
特別展室で開催する特別展の解説。



**特集展示図録**  
文化交流展示室で開催する特集展示の解説。



**「ベトナム語の絵本」**  
江戸時代のベトナムと日本の貿易の様子を描いた「海のむこうのずっとむこう」をベトナム語に翻訳。（現地機関に配布）

**「きゅーはくの絵本」** 子どもたちに日本の歴史・文化を分かりやすく、親しみをもって理解してもらうために作った当館独自の絵本。





# 施設情報

## 基本情報

**住所・連絡先** 〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2(太宰府天満宮横)  
ハローダイヤル 050-5542-8600(午前9時～午後8時/年中無休)  
www.kyuhaku.jp

**開館時間** 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
夜間開館日は午後8時まで開館(入館は午後7時30分まで)  
※夜間開館は状況により実施していない場合がございます。

**休館日** 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館、翌日休館)、年末

**文化交展(平常展)観覧料** 一般700円、大学生350円  
※障害者手帳等をご持参の方とその介護者1名は無料。  
※高校生以下・18歳未満および満70歳以上の方は無料。  
※特別展は別料金。

文化交展(平常展)観覧無料日  
国際博物館の日(5月18日、ただし休館日にあたる場合は翌日)、敬老の日、  
文化の日(「留学生の日」とし、留学生については無料)、  
家族の日(11月第3日曜日。中学生以下のお子様と  
ご一緒の方2名まで無料。1家族につき2名まで)

## 駐車料金

| 自 転 車            | 無 料      |
|------------------|----------|
| バ イ ク            | 250円/回   |
| 普通乗用車<br>・準中型自動車 | 500円/回   |
| マイクロバス           | 1,300円/回 |
| 大 型 バス           | 2,000円/回 |

※障害者手帳等の提示により免除。  
詳しくはお問い合わせください。

## 駐車スペース

| 普通乗用車 | 313台 |
|-------|------|
| バ ス   | 9台   |

※駐車場の利用時間:  
午前8時30分～午後7時  
(入庫は午後4時30分まで)  
夜間開館日は  
午前8時30分～午後9時  
(入庫は午後7時30分まで)



盲導犬、介助犬、聴導犬を  
伴っての入館が可能です。

## 施設概要

| 土地面積    | 159,844 (㎡)                         |
|---------|-------------------------------------|
| 建物面積    | 建築面積 14,623                         |
|         | 延面積 30,675                          |
| 展示・収蔵面積 | 内訳 独法 / 9,300 県 / 5,780 共有 / 15,595 |
|         | 展示面積 5,444                          |
|         | 内訳 独法 / 3,844 県 / 1,375 共有 / 225    |
| 展示・収蔵面積 | 収蔵面積 4,518                          |
|         | 内訳 独法 / 2,744 県 / 1,335 共有 / 439    |

## 収蔵品 (令和6年3月31日現在)

| 区分                   | 総数     | 国宝 | 重要文化財 |
|----------------------|--------|----|-------|
| 独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館 | 18,292 | 4  | 48    |
| 福岡県立アジア文化交流センター      | 405    | 0  | 3     |

※九州国立博物館の収蔵品の計算方法が機構内の他館と異なっていたため、令和6年3月31日に計算方法を改めました。

## 寄託品 (令和6年3月31日現在)

| 区分                   | 総数    | 国宝 | 重要文化財 |
|----------------------|-------|----|-------|
| 独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館 | 1,275 | 1  | 13    |

## 入場者数

### 入館者数 (人)

|             |           |
|-------------|-----------|
| 平成17年度      | 1,280,314 |
| 平成18年度      | 1,879,855 |
| 平成19年度      | 1,386,388 |
| 平成20年度      | 1,219,487 |
| 平成21年度      | 1,739,503 |
| 平成22年度      | 1,143,666 |
| 平成23年度      | 884,633   |
| 平成24年度      | 1,235,018 |
| 平成25年度      | 893,154   |
| 平成26年度      | 932,935   |
| 平成27年度      | 1,024,008 |
| 平成28年度      | 1,067,831 |
| 平成29年度      | 842,577   |
| 平成30年度      | 893,393   |
| 平成31(令和元)年度 | 829,655   |
| 令和2年度       | 149,919   |
| 令和3年度       | 236,468   |
| 令和4年度       | 535,611   |
| 令和5年度       | 648,701   |

### 文化交展(平常展)入場者数 (人)

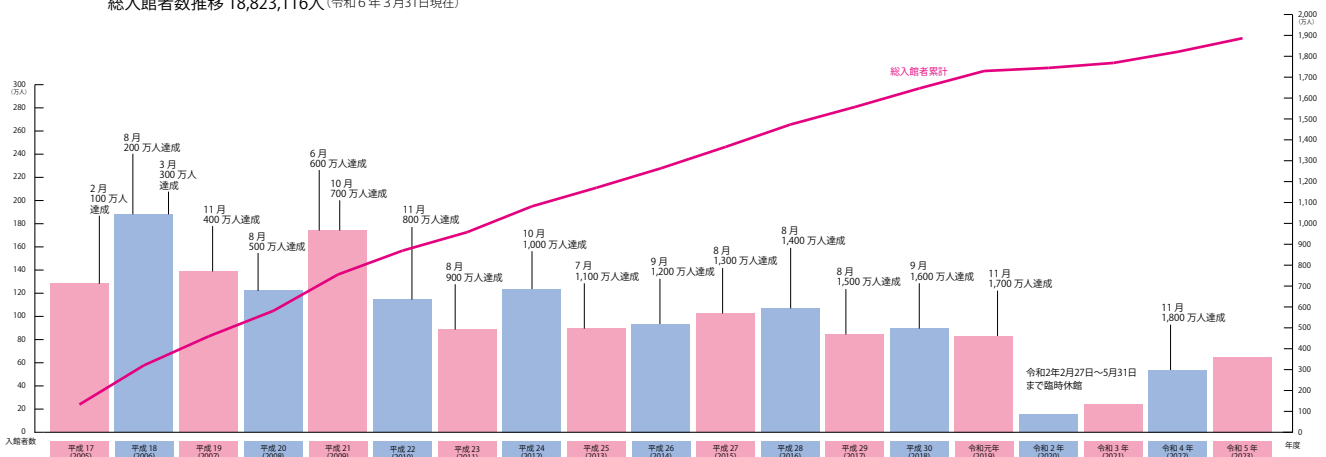
|             |           |
|-------------|-----------|
| 平成17年度      | 831,180   |
| 平成18年度      | 1,094,386 |
| 平成19年度      | 762,809   |
| 平成20年度      | 589,777   |
| 平成21年度      | 760,255   |
| 平成22年度      | 422,843   |
| 平成23年度      | 358,366   |
| 平成24年度      | 460,525   |
| 平成25年度      | 349,848   |
| 平成26年度      | 357,362   |
| 平成27年度      | 412,621   |
| 平成28年度      | 393,590   |
| 平成29年度      | 350,848   |
| 平成30年度      | 349,114   |
| 平成31(令和元)年度 | 348,563   |
| 令和2年度       | 81,230    |
| 令和3年度       | 104,898   |
| 令和4年度       | 239,282   |
| 令和5年度       | 287,160   |

### 特別展入場者数 (人)

|             |           |
|-------------|-----------|
| 平成17年度      | 683,211   |
| 平成18年度      | 691,880   |
| 平成19年度      | 512,856   |
| 平成20年度      | 515,495   |
| 平成21年度      | 1,055,043 |
| 平成22年度      | 543,489   |
| 平成23年度      | 354,228   |
| 平成24年度      | 646,511   |
| 平成25年度      | 377,755   |
| 平成26年度      | 447,301   |
| 平成27年度      | 471,507   |
| 平成28年度      | 528,878   |
| 平成29年度      | 317,421   |
| 平成30年度      | 351,277   |
| 平成31(令和元)年度 | 325,714   |
| 令和2年度       | 50,432    |
| 令和3年度       | 108,255   |
| 令和4年度       | 283,918   |
| 令和5年度       | 242,311   |

※当館は館内に無料の施設もあるため、文化交展・特別展の入場者以外も数値に含まれます。  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年2月27日～5月31日まで臨時休館しました。

総入館者数推移 18,823,116人(令和6年3月31日現在)



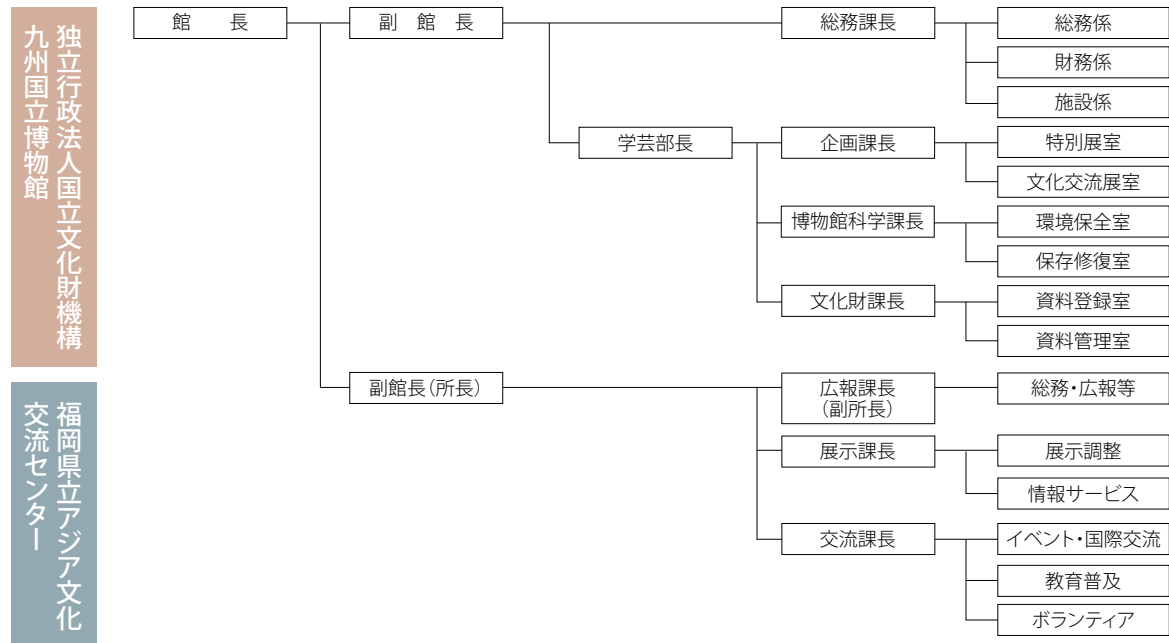


## 組織

### 九州国立博物館は、国(独立行政法人)と福岡県が連携協力し、事業運営を行っています。

この組織形態は、文化庁が設置した「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」において取りまとめられた基本構想の一つである「国と博物館が設置される地域と連携し、相互に協力しながら博物館の諸活動及び管理運営をおこなう博物館」に基づいています。

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館は、主に文化財管理、展示、博物館科学事業を、福岡県立アジア文化交流センターは、広報、交流、教育普及事業を行っています。



職員数(常勤) (令和6年4月1日現在) (人)

| 区分                   | 職員数 | 一般職 | 研究職 |
|----------------------|-----|-----|-----|
| 独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館 | 28  | 10  | 18  |
| 福岡県立アジア文化交流センター      | 19  | 11  | 8   |

## 沿革

|                            |                                                                                                                            |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成6(1994)年6月               | 文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」(以下、委員会という)を設置。                                                                                  |
| 平成8(1996)年3月               | 文化庁が新構想博物館の設置候補地を福岡県太宰府市とすることを決定。<br>名称を「九州国立博物館(仮称)」とした。                                                                  |
| 平成9(1997)年6月               | 委員会が、「九州国立博物館(仮称)基本構想」を策定。                                                                                                 |
| 平成11(1999)年3月<br>6月        | 委員会が、文化庁長官に「九州国立博物館(仮称)基本計画」を答申。<br>文化庁及び福岡県が合同で、九州国立博物館(仮称)の設立準備に関する専門的事項を取り扱う<br>「九州国立博物館(仮称)設立準備専門家会議」(以下、専門家会議という)を設置。 |
| 平成12(2000)年3月<br>4月        | 専門家会議が「九州国立博物館(仮称)常設展示計画」を策定。<br>「九州国立博物館(仮称)建築基本設計」を完了。                                                                   |
| 平成13(2001)年3月<br>4月        | 文化庁と福岡県が「建築実施設計」及び「展示基本設計」を完了。<br>東京・京都・奈良の国立博物館を統合し、独立行政法人国立博物館(以下、独法という)が発足。<br>独法内に「九州国立博物館(仮称)設立準備室」を設置。               |
| 平成14(2002)年3月<br>4月        | 文化庁と福岡県が「建設工事(3年計画の第一年次)」に着手。<br>九州国立博物館(仮称)建設工事起工式(平成14年4月10日)                                                            |
| 平成15(2003)年4月              | 独法及び福岡県が「展示工事(2年計画の第一年次)」に着手。                                                                                              |
| 平成16(2004)年3月<br>10月       | 九州国立博物館(仮称)建設本体竣工(建物完成)。<br>文化庁、独法及び福岡県が、正式名称を「九州国立博物館」と発表。                                                                |
| 平成17(2005)年3月<br>4月<br>10月 | 九州国立博物館展示工事(2年計画の第二年次)が完了。<br>独法が九州国立博物館を設置。また、福岡県が福岡県立アジア文化交流センターを設置。<br>開館記念式典(平成17年10月15日)が行われ、翌16日より一般公開が開始。           |
| 平成19(2007)年4月              | 独法と独立行政法人文化財研究所を統合し、独立行政法人国立文化財機構が設置される。<br>これに伴い、独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館となる。                                                 |
| 平成20(2008)年8月<br>12月       | 入館者500万人達成(平成20年8月14日)。<br>九州国立博物館で日中韓首脳会議が開催される(平成20年12月13日)。                                                             |
| 平成24(2012)年10月             | 入館者1,000万人達成(平成24年10月9日)。                                                                                                  |
| 平成27(2015)年10月             | 開館10周年を迎え、開館10周年記念式典を行う(平成27年10月17日)。                                                                                      |
| 平成29(2017)年8月              | 入館者1,500万人達成(平成29年8月19日)。                                                                                                  |
| 令和2(2020)年10月              | 開館15周年を迎える。                                                                                                                |

## ■ アクセスマップ



## ■ 交通案内

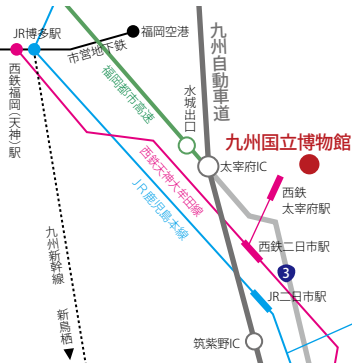
**西鉄電車** ○西鉄福岡(天神)駅から西鉄天神大牟田線(特急約16分/急行約18分)で西鉄二日市駅乗り換え、西鉄太宰府線(約5分)で西鉄太宰府駅下車、徒歩約10分。※特急/急行料金不要

**JR** ○JR博多駅からJR鹿児島本線(快速約15分)でJR二日市駅下車、JR二日市駅から西鉄二日市駅(徒歩約12分、バス約6分)、西鉄二日市駅から西鉄太宰府線利用。

**自動車** ○九州自動車道/太宰府ICまたは筑紫野ICから高雄交差点経由で約20分。○福岡都市高速/水城出口から高雄交差点経由で約20分。

**タクシー利用** ○JR二日市駅から約15分・福岡空港から約30分。

**西鉄バス** ○博多バスターミナル(1階11番のりば太宰府行き)から西鉄太宰府駅下車(所要時間約40分)、徒歩約10分。※福岡空港国際線ターミナル経由



## ■ 周辺環境



### ■ 太宰府天満宮

菅原道真公を祭神として祀る天満宮のひとつ。初詣の際には日本全国から毎年200万人以上の参詣者があります。現在、京都の北野天満宮とともに全国天満宮の総本社とされ、また菅公の霊廟として篤く信仰されています。



### ■ 大宰府政庁跡

大宰府政庁跡(都府楼跡)は、かつて「遠の朝廷」と呼ばれ、7世紀後半、九州を治める役所が置かれた場所です。当時は壮麗な建物が建ち並んでいましたが、今は広い野原に大きな礎石(一部レプリカ)が並び、往時を偲ぶことができるスポットになっています。



### ■ 観世音寺

九州を代表する古寺で、東大寺、下野薬師寺とともに「天下三戒壇」の一つとされています。平安時代から鎌倉時代にかけての仏像(重要文化財)などが安置され、梵鐘(当館展示中)は日本最古の梵鐘の一つで国宝に指定されています。



### ■ 神護山 光明禅寺

菅家の生まれである鉄牛円心和尚が創建した臨済宗東福寺派に属する禅寺。枯山水の庭がある九州でただひとつの石庭苔寺で「九州の苔寺」とも呼ばれています。西鉄太宰府駅からの散策路「国博通り」(西側アクセス)沿いにあります。

写真提供: 太宰府市・太宰府天満宮

